



かとう しょうご
加藤 将伍

調整区域の空き家活用、住宅から
飲食店等への用途変更について

飲食店の排水放流不可の理由は

【答弁】 浄化槽の排水を10人槽以下に限るため

動画で一般質問を
ご覧いただけます



問 現在の一律制限ではなく、流末までの距離や道路側溝の排水能力に合わせて、場所ごとに調査し、合併浄化槽設置許容量を決めるべきでは。

答 不測の混乱が生じる恐れがあることから、現時点での見直しの予定はない。

がん検診の推進、受診率向上に向けた取り組み

問 コロナ禍における検診の対応方法と受診率の影響は。

答 検診日程の増加と受診時間の分散等の工夫で、令和3年度以降コロナ前を上回る成果を得た。

問 検診を受診するきっかけの少ない専業主婦を含め、女性に向けた取り組みは。

答 20歳で子宮頸がん、40歳で乳がん検診の無料クーポンを配布。また、乳幼児健診時にお母さんに啓発チラシを配布している。さらに、集団検診においては女性限定の日程を設けている。

問 検診を受診するきっかけづくりとして、本市の「健幸ポイント事業」にからめた施策は。

答 健幸ポイント手帳に紹介ページを設け、検診の受診を「ポイント獲得項目」に設定している。

問 今後、社会保険と市が連携を図り、がん検診を推進することも必要と考えるが、方策は。

答 日本最大の医療保険者「協会けんぽ」と同時受診ができる環境整備を模索していく。



こんどう さおり
近藤 沙織

動物愛護・動物福祉や動物問題に
おいてさらなる周知が必要

野良猫問題への取り組み状況は

【答弁】 ボランティアの確保や自治会との連携に努める

動画で一般質問を
ご覧いただけます



問 動物福祉の指標として「動物の5つの自由」が認知されており、人間が管理する全ての動物に対して与えられるべきと考えるが、見解は。

答 「5つの自由」については重要であると認識し、今後、様々な機会を通じて周知を図る。

問 相当数が生息すると考えられる野良猫の現状と、TNR(捕獲、不妊・去勢手術、戻す)を含め、野良猫問題に対応するボランティアの数は。

答 苦情は令和4年度に11件。対応ボランティアは現在1団体。必要に応じて、ボランティアの確保に努めていく。

問 災害時のペット同室避難は、動物愛護の観点のみならず、飼い主が避難を躊躇することのないよう安全面でも重要。市の取り組みは。

答 場所の確保、避難者や施設管理者の理解と協力、衛生環境の確保など様々な課題があり、他自治体の取り組みなどを参考に研究していく。

問 ペット同行避難について知らない人が82%と認知度が低い。認知度向上のために防災手帳作成や動物病院との連携は。

答 国で作成している災害対策ガイドラインや県の防災手帳を、市HPに掲載して周知啓発する。

